

久保洋子ネット通信

皆さまにはお元気で過ごしていることお喜び申し上げます。日頃から議員活動にご理解を賜り感謝申し上げます。

9月定例会は9月2日から17日までの16日間開催されました。私は一般質問を行いましたので次ページに概要を掲載しております。

今期は人口減少・高齢化対策特別委員会委員長として委員との協議、視察をおし提言をまとめるために力を注いでいます。人口減少時代は出生率の低下、高齢者の増大、生産年齢人口の確保という国の課題でもあり、難しいテーマで取り組みを整理しながら、委員会でポイントをしぼり、まとめていきたいと考えています。

さて9月、10月と台風による被害と特に台風19号の豪雨は河川の決壊など大きな被害が長野県等をはじめ各地をおそいました。地球温暖化と自然災害は予測されない脅威が我々に襲いかかってくる時代になってきています。誰もが不測の事態に備えることが大切であることを知らしめたと思います。

この19号の影響で10月15日特別委員会の視察先の長岡市、千葉柏市は交通事情も鑑み急遽の予定変更を決めて長岡市のみマイクロバスで日帰りの実施いたしました。

また、参加予定の10月25日からの日本女性会議は昨年の金沢市から引き継いだ栃木県佐野市開催でしたが市内が水につかり復旧を最優先するため大会は中止となりました。

金沢においては北陸新幹線の長野車両センターでの浸水が衝撃的でした。新幹線は2週間直通運転の取りやめとなり、利用者は不便を感じ、観光産業は大打撃を受けました。浸水車両10編成120両の車両は廃車となり148億円の被害という。年末年始の臨時運転の対応も例年通りとはいかないようです。令和元年の希望あるスタートから一転した台風の被害の大きさに一日も早い復興を願っている次第です。

ごあいさつ



医療と福祉と地域をつなぐ

久保洋子 議員事務所
〒920-0014 金沢市諸江町36-17
TEL.076-264-3536
FAX.076-264-3536
URL.https://kubo-yoko.com/



住所 〒651-1123 神戸市北区ひより台2丁目30-6
Tel/Fax【マナ助産院専用】(078)742-3474
【小さないのちのドア専用】(078)743-2403
Mail【マナ助産院&いのち語り隊専用】ikuko@mana-mh.com

小さないのちのドア

議会質問

2007年に熊本の慈恵病院で赤ちゃんポスト「このとりのゆりかご」が赤ちゃんの生き延びる権利が最優先と設置されました。

昨年9月に神戸市のマナ助産院は24時間、匿名相談も可能な面談型の「小さないのちのドア」をスタートしました。赤ちゃんを育てることができないうちに追いつめられた方の相談をお受けましょう。赤ちゃんポストのように赤ちゃんを置き去ることはできませんが、ドアの向こうでは助産師が待っています。保険証がなくても診察料がなくても妊婦健診や相談に応じ、女性と赤ちゃんにとって一番いい道と一緒に見つけましょう。とマナ助産院助産師の永原郁子院長は呼びかけています。

設置にクラウドファンディングによる資金を得て立ち上げ、寄付での運営をしています。全国から妊娠の悩みや出産困難な女性がドアを開けているのです。私は「小さないのちのドア」が様々な困難を乗り越えてスタートできた取組みを広く知って欲しいと紹介させていただきました。

6月～10月までの市議会議員活動のご紹介



6月19日
「小將町お寺で朝市」
看護学生が地域の居場所作りに協力



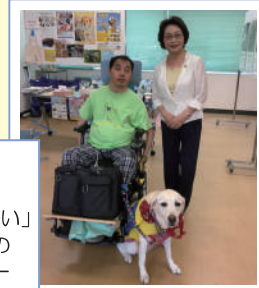
7月27日
市政報告会開催

8月3日
「天親カフェ開設」
天神町地区の憩いの場所



8月3日
「西諸江夏まつり」
地区のみなさんと

8月22日
「女性起業家交流会」
毎月1回
研修と意見交換会



9月8日
「金沢市福祉のつどい」
介助犬ユーザーの
平野氏とタフィー

9月10日
「金沢傾聴ボランティアの会」
新役員の市長に活動報告訪問



10月9日
「金澤レディース経政会」
前経団連会長、榊原氏の講演と懇親会

第14回 全国市議会議長会研究フォーラムin高知

高知ちばさんセンターにおいて、正副議長をはじめとする市議会議員等約2,100名の参加のもと開催された。自民党金沢市議員会から11名参加しました。第1日目は、野尻会長（大分市議会議長）の主催者挨拶等の後、中島岳志東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授から「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」と題する基調講演があり、その後、坪井ゆづる朝日新聞論説委員をコーディネーターに、高知市議会田鍋議長他3名のパネリストで「議会活性化のための船中八策」をテーマにパネルディスカッション。

第2日目には、坪井コーディネーターのもとに、滝沢上越市議会議員、久坂鎌倉市議会議員、小林周南市議会議員を報告者として「議会活性化のための船中八策」をテーマとする討議があり、市議のなり手不足、女性議員の現状、議会改革等の現場の課題について活発な議論が交わされた。

オーテピア視察

オーテピアは複合施設で1階高知声と点字の図書館、2・3・4階は高知図書館、5階高知みらい科学館です。図書館の設備は歩行車、車いす、ベビーカーやベビーカーの貸出しが整備、ベビールームやキッズスペースなど設置されていた。

声と点字の図書館は視覚障害者向けに点字図書のほか録音図書、パソコン、タブレットで音声を聞きながら本の画像や文字を見ることが出来る閲覧室のほかボランティアスペース、相談室などある。またオーテピア横出入りに補助犬用トイレ（外）があり盲導犬等ユーザーのニーズに添った設置があり今後の参考になる取組みです。



オーテピア声と点字の図書館



ベビーカーと図書が入る歩行車



高知ちばさんセンター

行政視察・長岡市

人口減少・少子高齢化対策特別委員会の委員9名は10月15日長岡市視察。

「切れ目のない子育て支援について」長岡市子ども未来部子ども家庭課から説明を受け質疑応答の後、子育ての駅「てくてく」施設見学をしました。台風19号で信濃川は氾濫ぎりぎりだったようで、夏の花火で賑わう河川敷は水が引いた後は見るも無惨な姿でした。支流の地区で住宅の床下浸水被害のある中、行政視察を受け入れていただき感謝すると共に被害に遭われた方々には心からお見舞いを申し上げます。

長岡市は人口27万人。子どもの施策を統合し、子供たちが健やかに成長していくためには乳幼児期から思春期まで子供の成長に合わせた一貫した支援体制が必要であり、そのため有効な方策として母子保健、子育て支援、家庭教育、幼児教育、学校教育、青少年健全育成などを一元的に支援する体制を整えました。平成28年4月に子育て支援部から子ども未来部に改称し積極的に子育て支援に取り組んでいます。

「子育ての駅てくてく」は長岡市オリジナル保育士や子育てコンシェルジュのいる屋根付き公園です。雨や雪の日でも遊べる全天候型の施設で、当日も多くの親子や祖父母と孫など、利用者が賑わっていました。そのほかに「子育ての駅ぐんぐん」市民防災センター内に開設。「子育ての駅ちびっこ広場」はまちなか絵本館で保育士のいる絵本館です。「子育ての駅すくすく」は栃尾地域栃尾産業センター内に設置。また長岡市と合併した町村の全地域に地域版子育ての駅を開設しており、地域特性を生かした運営を行っているとのこと。

長岡版「ネウボラ」で妊娠期から出産育児まで切れ目のない支援を展開している。

産後ケアの一む「ままりら」はマンションの一室で家庭的な雰囲気作りラックスできる環境を作り母子保健推進員がお子さんを見守る中、助産師や栄養士などに相談できる体制を作っているのは素晴らしい。落ち着いた雰囲気の中で産後のケアや子育てサポートが利用者の好評を得ているとのことでした。



Q 中核市における児童相談所について

児童相談所設置以来13年間が経過したが今までを振り返り、最大のメリットを伺う。また児童虐待防止は特効薬がないといわれ、児童福祉司など職員の疲弊も心配であり運営上の留意していることを伺う。

A 管轄が市区域であり、気になる子や家庭との距離が近いので、学校、医療機関、民生委員、警察など関係者と直接会って話すことが容易にできることが強みである。また幼児教育、母子保健、学校保健、生活保護等と同じ市の機関であることも強みである。子育て支援、一時保護や措置による施設入所まで一貫して対応できるメリットがあり大きな効果をあげてきた。虐待相談件数が522件あり開設当時より4倍の増加で、内容も複雑化多様化し極めて難しいケースが多い。その中で個々のスキルアップとリーダーの人材育成に意を用い、メンタルヘルスに留意し働きやすい環境にすることを一番にしなければならない。（市長）

Q 妊娠・出産支援と命の尊重について

妊娠の届け出は妊娠を早期に把握し母子保健対策を実施するため大切である。平成30年度の妊娠届受受理数は3,490件だが、妊娠届け出の遅れるケースは何件あったかの。また若年、高齢、シングル、多胎、外国人妊婦の人数を伺う。予期せぬ妊娠に悩む女性などの電話相談「妊娠出産ほっとライン」について月から金曜の日中のみでなく夜間やメール相談対応ができないか伺う。

A 妊娠20週過ぎてから届出27件。20歳以下の若年妊婦15人、高齢初産妊婦327人、シングル妊婦306人、多胎妊婦34人、外国人妊婦46人である。（保健局長）石川県の妊娠110番で週一に夜間相談をしているため、今のところ本市では考えていない。緊急な対応が必要な事例は民間団体、NPOが運営する窓口を紹介している。（市長）

Q 受動喫煙防止対策について

受動喫煙防止対策は社会のニーズであり健康管理の一環としても組織的に取り組む必要があると思うが市長の見解を伺う。

A 来年4月に改正健康増進法が全面施行されるにあたり、法令に基づき指導体制を整備する。たばこのポイ捨て防止を徹底等、市民の意識啓発をはかり、だれもが健康で快適に暮らせるまちづくりを推進していく。（市長）

Q 食品ロス対策について

フードドライブは3か所に増やしたが市民の協力状況を伺う。モデル事業のフードシェアリングアプリ「TABETE」の現在の登録者数と参加店舗数と今後の取り組みを伺う。

A フードドライブ実施により支援の必要な福祉施設等での有効活用となり、生ごみ削減の効果もある。食品ロスをテーマとするかがやき講座の出前も3倍に増え、市民の意識向上に繋がっている。市民団体等の協力のもと先月まで、150人から約1800のインスタント食品、飲料、調味料の提供をいただいた。「TABETE」は8月末現在、登録者数は558人、参加店舗32店。今後も無料情報誌や本市ホームページの活用や食品関係者、イベントなどで広く紹介していく。（環境局長）

金沢市は、事業者からの「食品ロス」を削減するため、フードシェアリングアプリ「TABETE（タベテ）」を運営する(株)コークッキングと連携し、フードシェアリングモデル事業を導入

フードシェアリングとは…店頭で売り切れない食品を、必要としている人に紹介・案内し、割引価格で提供することにより、まだ食べられる食品を無駄にしないようにする取組のことです。

「TABETE」とは…「TABETE」は、『フードロス』となる恐れのある料理等の商品を、アプリで出品・購入できるフードシェアリングサービスです。